

透湿性白色シートを用いた

イチジク「柵井ドーフィン」の高品質果実生産

イチジクの果実品質は土壌水分や日照などによって左右されやすく、曇天多雨条件下では、果実の裂開、糖度の低下、着色不良などの品質低下が起きます。兵庫県立農林水産技術総合センターでは、透湿性白色シートを樹冠下に被覆することにより土壌の水分コントロールと光環境の改善を図り、果実品質を向上させる技術を開発したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 不織布製の透湿性白色シートをイチジク「柵井ドーフィン」の一文字整枝樹の樹冠下の地面に、樹列に平行に被覆します。1樹列につき、1m幅のシートを2枚、7月中旬から11月初旬まで被覆します。被覆した状態のままチューブ灌水します。
2. シートの被覆により土壌の水分含量は安定し、白色シートの反射光により樹冠下部の光環境が著しく向上します。
3. シートの被覆により、新梢伸長はやや抑制されますが、着色、糖度が向上し、果実の目の裂開も小さくなります。着色、糖度の向上効果が最も高い被覆開始の時期は7月です(表)。
4. 6月及び7月の被覆開始では、スリップス被害も軽減され、特に6月の被覆開始で効果が大きいです。6月、7月及び8月の被覆開始では、天候不良期における収穫後の果実腐敗が大幅に軽減されます(表)。
5. 10a当たりの資材費は約12万円を要しますが、果実品質の向上と、腐敗果、スリップス被害の軽減などにより、資材費以上の経済効果が期待されます。

表 透湿性白色シートを被覆して栽培したイチジクの生育と果実品質

被覆開始日	新梢長 (cm)	果実重 (g)	着色(カラチ ャート指数)	糖度 (Brix%)	スリップス被害 果率(%)	腐敗果 発生率(%)
6月18日	59.5	77.1	7.7	16.1	1.8	38.5
7月20日	68.4	77.2	7.9	17.2	7.6	33.3
8月12日	66.2	76.1	7.6	16.0	24.0	38.5
無処理	83.0	69.5	7.2	15.5	19.2	86.7

(注) 1. 果実重には有意差がありません。2. 腐敗果発生は、9月5日(当日及び前日に降雨)に収穫後、常温下の室内に放置し、24時間後に調査しました。目が水浸状に変色または果汁が漏出した果実を腐敗果としました。

☆ 活用面での留意点

1. シート被覆により新梢伸長が抑制される傾向があるので、樹勢の弱い園には適用できません。また、風害に弱いため、防風施設を充実します。
2. 詳細については、兵庫県立農林水産技術総合センター・農業技術センター・農産園芸部(電話:0790-47-2425、電子メール:takashi_mano@pref.hyogo.lg.jp)にお問い合わせください。
(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 後藤 明彦)